202　仏堂　　**浄土寺　本堂　　一棟**　　鎌倉時代（1327年）

方五間　一重　入母屋造　向拝一間　本瓦葺

浄土寺は聖徳太子の創立と伝えるが、その後荒廃していたのを定証が再興し、嘉元 4 年（1306）金堂以下を建立供養したものの、まもなく正中2年（1315）火災のため堂塔のすべてが焼失した。すぐに再建に着手し、嘉暦2年（1327）に現本堂、元徳元年（1329）に多宝塔、貞和元年（1345）に現阿弥陀堂があいついで完成した。これらは再建当時から現存している。本堂は、正面二間通りを外陣とし、後方を内陣とする密教式平面で、和様を基調としているが、桟唐戸、花肘木、二斗などを用いた、いわゆる折衷様、もしくは新和様に属し、瀬戸内海沿岸地域に残るこの種様式の代表的、かつ最古の例として貴重である。

阿弥陀堂（重文）

広島県尾道市東久保町20-28　　0848（37）2361　　JR尾道駅からバス浄土寺下下車

境内自由